

つゆ はら やく ばら
露払い・厄払い



有松の天狗・狸々

有松の祭礼には天狗と狸々(しょうじょう)が姿を表します。中国の故事よりお酒の神様や富をもたらす存在として親しまれてきた狸々は、有松では天狗と一緒に山車の先導役を努めます。時にはいたずらっこたちを追いかけて回す姿も見られますが、大きなうちわで撫でられると子どもが健康に、利口に育つと言われ人々が寄ってくることもあります。赤い顔をした大きな姿に驚いた小さな子どもたちの泣き声と大人の笑い声に包まれる、有松の風物詩です。(イラスト：奥村ちひ)

「つまりありまつ」は、有松・鳴海絞の産地である有松ならではの魅力を発見し、工芸と観光の心地よい関係を育むためのフリーペーパーです。産地ならではの特別な経緯や場所を紹介し、ちょっとした有松が身近になることを期待しています。

発行元 名古屋市

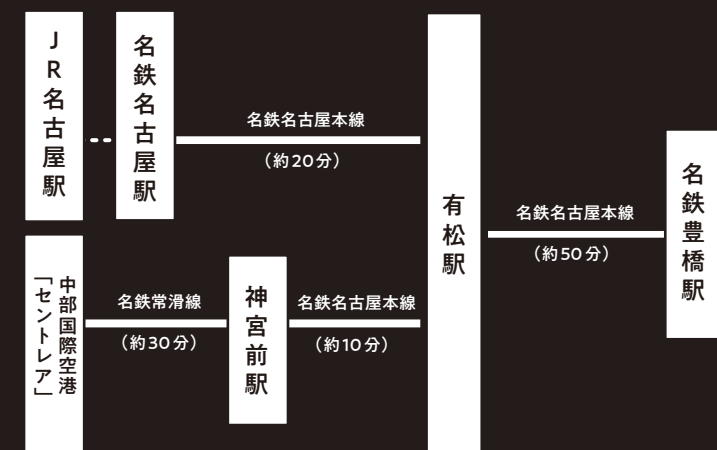
編集・構成 有松地域デザイン委員会

発行日 2023年10月1日



日本遺産
有松

掲載内容は発行日時点でのものです。
最新の情報は店舗等にお問い合わせください。



交通アクセス

- 「JR名古屋駅」から名鉄名古屋本線に乗換(約20分)
⇒「有松駅」から徒歩すぐ
- 中部国際空港「セントレア」から名鉄常滑線(約30分)
⇒「神宮前駅」で名鉄名古屋本線に乗換(約10分)
⇒「有松駅」から徒歩すぐ
- 「名鉄豊橋駅」から名鉄名古屋本線に乗換(約50分)
⇒「有松駅」から徒歩すぐ



表紙写真

- 1 有松・鳴海絞に従事する染色工場の早恒染色
- 2 2023年に建造150周年を迎える西町の山車「神功皇后車」
- 3 晩秋の有松を楽しむ会の会場である竹田家住宅の中庭
- 4 有松ミチアカリでは幽玄な竹あかりに照らし出される町並み

2023
秋冬号
Autumn
&
Winter

TAKE FREE

工芸×観光を楽しむ
有松タウンガイド

Arimatsu Town guide

つまりありまつ

CONTENTS

有松のイベントスケジュール 9月〜2月
つくるひと(早恒染色)
有松でひとやすみ(六弦とコットン×MARUKI)
おみやげMAP



Autumn and Winter Events

有松の イベント スケジュール 9月—2月

日本遺産とは、日本の歴史や文化、風土が織りなす豊かな魅力を伝え、次世代に引き継いでいくための重要な文化財や地域のことを指します。その保護・活用により、地域の活性化や観光振興が図られ、多様な価値が守られています。

「江戸時代的情绪に触れる絞りの産地」として2019年に日本遺産として認定された「有松」は、伝統工芸である「有松・鳴海絞」、浮世絵にも描かれた美しい町並み、そして、伝統行事として続くお祭りが今も続いています。名古屋市内にあり名古屋駅から電車で20分ほどに位置する有松は、日本の古き良き時代が色濃く残る場所と言えるでしょう。

有松は秋から冬にかけてさまざまな催し物が行われます。毎年10月第1日曜日に開催される有松天満社秋季大祭では、東町・布袋車（ほていしゃ）、中町・唐子車（からこしゃ）、西町・神功皇后車（じんぐうこうごうしゃ）と3輛ある山車が歴史的な町並みを残す有松東海道を曳行される姿を見ようと多くの人が訪れます。秋が深まる時期には、日本文化やSDGsに触れるイベント「晩秋の有松を楽しむ会」や、夜の有松を彩るライトアップイベントの「有松ミチアカリ」や「絞と瓦 灯りストリート in 有松」などが続きます。歴史と文化が息づく美しいまち有松で、日本の豊かな魅力に触れてみてはいかがでしょうか。



日本の文化財や伝統文化に対して、その歴史的経緯や世代を超えて受け継がれている伝承・風習なども含め、ひとつの「ストーリー」として遺産に位置づけるもの。文化庁により認定と支援の取り組みが行われています。



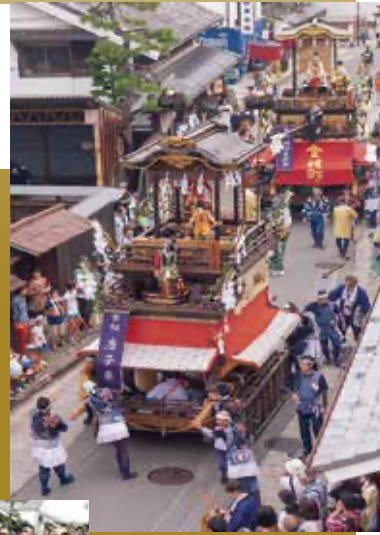
日本遺産・有松

3つの主要構成要素



9月-10月-11月
のイベント

有松天満社
秋季大祭



文政7年(1824年)に現在の八つ棟造りの壮麗な神殿が建立され今もそのまま残る貴重な神社「有松天満社」では、毎年「10月第1日曜日」に秋季大祭がおこなわれます。東町布袋車、中町唐子車、西町神功皇后車と3輛の山車が備えられた明治時代からは、有松東海道を山車が曳行される「山車まつり」の形式になったとされています。神事が執り行われる午前中は囃子方の演奏や人形方のからくり奉納や、山車を曳行する場方最大の見せ場である方向転換「車切り(しゃぎり)」をご覧ください。夕方になると山車はろうそくの灯が点いた提灯を取り付け、有松の古い町並みに夜囃子の音色が響き渡る幻想的な雰囲気や夜祭も見どころのひとつです。



2023年は西町神功皇后車の建造から150年となる記念の年です。唯一有松で建造されたこの山車は、有松天満社の神紋である「梅鉢紋(うめばちもん)」がゆらくり人形の衣装や山車の飾り金物など至る所に施されています。コロナ禍は中止や神事のみと縮小して行っていた秋季大祭でしたが、日中は例年のように神事を執り行ない、夜祭りも実施いたします。2023年は周年を祝して特別な御朱印やうちわを頒布しておりますので、お祭りにご参加の方はぜひ中町年行司(秋季大祭祭礼本部)にお越しください。



鈴木章二
【有松天満社文庫講義総長】



絞と瓦
灯りストリート in 有松



江戸時代から続く絞産業と三州瓦屋根の歴史を、日本遺産のまち有松で感じることができるライトアップイベントです。染色家と鬼師がコラボした灯りのオブジェが、有松の夜を彩ります。美しい景色とアートに触れ、特別なひとときを楽しんでみませんか。



晩秋の有松を楽しむ会



秋も深まる時期に開催される「晩秋の有松を楽しむ会」は、日本遺産地区である有松を舞台に、古き良き「絞り・いけばな・きもの・お茶」などの伝統文化が息づくイベントです。「伝統文化を未来に繋げ町並みに脈をいもたらす」ことをコンセプトに掲げ、美しい町家を背景に、文化やアートの展示・披露が行われ、伝統が息づく一帯の魅力を余すことなく楽しむことができます。流派を超えて設立された「いけばなストリート」は、軒先や家屋を舞台に美しい作品を展示しています。絞りの豪商が建てた家屋を用いた「有松町家ライブ」や、かつて徳川家の将軍も訪れた「お茶室」など特別な空間での体験が特徴です。近年は環境や多様性に配慮したSDGsな取り組みも見所のひとつとなっています。



晩秋の有松を楽しむ会のシンボルオブジェは、絞りにこだわらず、伝統文化やSDGsに関わるさまざまな人の協力のもとで成り立っています。古いものを大事にするだけでなく、これからも維持し続けるために現状を踏まえ、前に進むことを目指して企画しています。



佐藤 寛
【晩秋の有松を楽しむ会 代表】

有松ミチアカリ



晩秋の有松を楽しむ会と同時期に開催される「有松ミチアカリ」は、地域の人たちとともに作った竹あかりで、夜の町並みをライトアップするイベントです。竹から作られた光のオブジェが、一人一人の想いを乗せて歴史ある町並みを彩ります。木造の日本建築が並ぶ通りと竹あかりの相性は素晴らしい、幻想的な灯りが日本人に根付いている文化と自然を優しく包み込みます。



ミチアカリは地域の人たちが集まり共に楽しみながら作品を仕上げていく参加型のアート活動です。毎年増えすぎた竹を伐採するところから始めて、持続可能な社会を見つめながら、地域の人たちが一つの目標で繋がることで大きな喜びを分かち合います。



大島 浩
【有松ミチアカリ代表】

有松町家ライブ



全国で活躍する演奏家が、有松の登録有形文化財「棚橋家住宅」などで開催する趣きのある音楽ライブは、日本の音楽シーンにおける貴重な文化交流の場となっています。ジャズ・クラシック・ポップスなど多岐にわたる音楽イベントは、歴史的な建物や風景と融合し、聴衆に非日常的な体験をほほ月提供しています。



街道から聞こえてきた音色がきっかけとなり、プロの演奏家を招いて実施しているライブ。町家での響きは心地よく、またプロの演奏を間近で鑑賞できるという贅沢ライブ。環境・ロケーション・人々の心を音楽が織りなします。演奏家たちの有松オリジナル編曲も楽しめます。



熊田 靖子
【有松町家ライブプロデューサー】

アリマツマーケット



毎年3月、6月、11月の第1日曜日に、有松天満社一帯を拠点に開催されるものづくり文化に触れる体験型のマルシェイベントです。江戸時代から続く伝統的工芸品「有松・鳴海絞」の手仕事や素材の扱いに共感するクリエイターや飲食店などがジャンル問わず多数出店しています。



新嘗祭



古代から続く日本の神事のひとつである「新嘗祭(にいなめさい)」は、天皇陛下が神々に新穀を捧げ、収穫に感謝する儀式です。五穀豊穡を祈願した春の祈年祭と対をなし、新穀を捧げて収穫への感謝を表します。この祭りは古代の風習や信仰の一環であり、現代の勤労感謝の日にも繋がる意義深い行事として有松では、毎年11月25日に行われています。同日の午後には成海神社から宮司をお招きし、七五三詣も執り行われます。

12月-1月-2月
のイベント

元旦祭



有松天満社では大晦日の夜から元日に1年の平穏と繁栄を祈願する元旦祭が行われます。大晦日のカウントダウンに始まり、元当日は朝から学業成就、家内安全、子孫繁栄、商売繁盛、開運除厄のご祈禱や、新年の御神札や破魔矢、御守り、祈願絵馬等の授与品を受ける人が列をなします。

左義長
どんど焼き



毎年1月14日に旧年に奉納されたお守りや御札などをお焚き上げる「左義長(さぎょう)」が有松天満社で、「どんど焼き」が火の神を祀る東町秋葉神社で行われます。正月行事の締めくくる行事として、有松では100年以上も続いています。

3月以降は次号掲載



浴衣の流し染めなど
染色加工を請け負う早恒染色



くくりを学ぶ絞り教室
染色まで行う工場・出張体験

早恒染色

ならうひとからつくるひとに

—— 染色工場で働くきっかけは

増田 私たちみんな早恒染色の絞り教室の生徒だったんです。生徒さんに、浴衣をつくるため秋から冬の期間限定で流し染めのアルバイトをしてほしいかと声がかかり、高江洲さんと一緒に手を上げました。

内田 その後4、5年して私も染めに加わりました。

—— 以前から有松・鳴海絞は知っていましたか？

増田 私は名古屋出身なので、絞りの存在は知っていました。結婚して近所に住むことになった頃に新聞で後継者不足だという記事を見てやりたいなと思って、子どもが幼稚園に入ったタイミングでこの教室に入ったんです。

内田 私は新潟県出身で全然知らなかったのですが、初めて行った有松絞りまつりで実演をされていた皆さんがすごくキラキラしてて、私もこんなおばあちゃんになりたいって。20代終わりから教室に入り、子育ての間、お休みをして、再開する時に友達の高江洲さんを引き連れてきました。

高江洲 私はその当時、大好きな俳優さんがドラマの待役で絞りの浴衣を着ていて、彼が私の絞った浴衣を着たらどんなにすきだろうって思ってたんです(笑)

—— 早恒染色ではどんなものをつくっていますか

増田 主に有松・鳴海絞の浴衣の反物を染めています。くくられた生地を受け取ったらまずお湯で煮て絵刷り(くくる場所を示す点や線)をとり、流し染めは台に並べて、じょうろで1色ずつ染液を手で流しかけます。下地、お花、葉っぱ、それ以外の背景の色で大体4、5色を色見本のチップに合わせて染料を調合して染める。一反につき約30分くらいかかります。浴

衣以外にハンカチなどの小物を1色で染める場合は、染料の入ったナベにドボーンと浸します。昔から紺染めの依頼も多くあります。最後に発色と色止めのためにソーピング(石鹼とお湯で洗滌)をして、乾かしたら糸抜きや検品などの仕上げを行なう別業者にバトンパスします。

内田 春夏は週に2、3日、仕事量を確認して出勤します。秋冬は来年の浴衣の染色が入ってくるので、ちょっと忙しくなりますね。

—— 染めるときはどんなことに気を付けていますか？

内田 仕上がりがきれいになるように、広げた時に何が1番ベストな状態で見えるのかいつも考えているよね。

増田 うちが昔ながらの伝統的な技法と染めを守っていく方針なので、必要なところにはノリを付けて、染まりすぎないように気を付けています。色が余計ににじむことを有松では「なく」って言うんですけど、基本は白湯(染めぬい部分)がなかなか(染料がにじまない)ように、表面だけが染まって筋が出て、隠れていたところは白いのが伝統的な絞り。巻き方が緩かったら糊をつけるとか下処理でカバーする。

内田 硬い糊やゆるい糊など絞り手さんに合わせた糊を使う。

増田 触ってみて柔らかいとちょっと濃いめの糊をつけるしね。その加減は職人技なので私たちは勉強中です。

—— 最近、変わってきたことはありますか？

増田 量産品の受注が減ってますね、ほんとに。コロナ禍で残念なことに、取引先がほとんど廃業している。一方で舞台衣装などの1点もののオーダー

や絞り体験は増えてきています。

高江洲 昔前は400円弱のタオルハンカチも飛ぶように売れて1人10枚買ったと聞いたけど、今はたくさん作って売れるよりも、ひとつひとつ丁寧に作って大事に使う時代に変わってきていると思います。

—— そんな中、体験をする方は増えていたりとか。どんな方が来られますか？

内田 夏休み期間中は自由研究でTシャツを作るお子さんや、観光目的で県外から来てくださる方が多いですね。じょうろで行なう流し染めの体験は早恒染色ならではの、とても喜ばれます。

増田 他にも選べる色数が多いからって人もいますね。

—— 体験に来た方への工場見学では、どんなことを伝えていますか？

増田 工程順に説明して、洗濯機を使うこともあるソーピング以外は手染めだし、手で絞るし、ほどこのも手でやるし、絞りは手仕事ですと。

内田 染めだけでもこういう工程があって職人がたくさん関わって、ようやく一反できる。

高江洲 高い値段の意味合い、こんなに丁寧に1つ1つ心込めて作っているのを直に感じてもらって、絞り製品の歴史、良さを伝えていくのは大事なことだと思います。

—— これからやってみたいことは何ですか？

増田 小学校や幼稚園で出張体験をすることで、興味を持った子供たちの中から職人になる子がいたらうれしいですね。愛知県を代表する工芸品なので、たくさんの子どもたちに知ってもらいたいです。

(文＝榎原あかね・ライター)

早恒染色で使用する道具・設備



じょうろ & 流し台

流し染めをやるために職人にとってもらっているというブリキのじょうろと、先代が作ってもらった金網を敷いた流し台。小さな柄を染めるのに注ぎ口が細かい方が使いやすいが、最近のものは太いのだという。かけ流した染液が台を流れていく。



染料

タッパーに入っさまざまな染料。絞りに適した「スレン染料」が廃盤になったり、価格が上がったりして、手に入りにくくなっている。



はかり

スツールで0.01gの単位まで測る。早恒染色独自の色を決める染料の配合は企業秘密。染料の割合は増田さんがつとめる。



長靴

染色をする際に履いている長靴。白色の長靴が、10年ほど経つと染料がしみ込み、深い紺色の状態になる。



脱水機

たくさん水を毎日使う染色工場では鉋物のどっしりとした脱水機を使用している。水を吸った衣類はとても重たく、ぐおんぐおんとゆっくり転し始めて脱水が進み軽くなるとキンキンと音が変わる。



寸胴鍋

一色染めをするときに使う寸胴鍋。ポイラーで約60～70℃に沸かした湯に染料を入れ、タイマーで測りながら、二人でかき混ぜる。

有松でひとやすみ

林 菜々子
[六弦とコットン]

浅井 万貴
[MARUKI]

有松を訪れる方を日々迎え入れているお二人に、有松での過ごし方や、お店を営む中で感じたことなどを話していただきました。

浅井 MARUKIをオープンしてからようやく1年が経ちます。普段のお客さんは8割くらいが地元の方ですね。近所の小さなお子さんがいるお母さん世代がロコミで来たり、目の前に公園があるので、お父さんがお子さんと一緒に飲み物を買って来てくれたりしますね。菜々子ちゃんのところも地元の方が多い印象だけ？

林 リニューアルする以前（2023年4月ありまつ會通ぐから「六弦とコットン」に変更）からも、平日はマダムが世間話をしながらコーヒーを飲んで、ゆったり過ごしています。近隣の地域に住んでいる方が初めて有松に来たというケースも意外と多いんですよ。週末は絞りを体験の前後で休憩に立ち寄る方もいて、東京や海外から、絞りや日本の伝統的な建物に興味を持って来られる方も多くいます。

浅井 東海道に面しているだけで、そんなに違うんだ！日本茶をいれている間、お客さんと何気ないおしゃべりをするのが楽しんだけど、地元の方に有松のことを教わる1年間だった。お客様同士の情報交換を聞くだけでも勉強になりますし、助け合いが店内で自然に行われているとうれしくなります。観光についてもまだ知らないことがたくさんあるな。

林 常連さんが適度な距離でお話して下さるのはいいですね。私は有松出身なので、生活圏内に歴史的な建物が当たり前にありました。人の暮らしている気配、生活感を歩いて感じてもらえると面白いと思います。有松で心地よく過ごしていただくのを念頭に、お店の空気感も大事にしています。

浅井 地元の子供たちが当たり前にしぼりのTシャツを着てる姿を見て、地元が有松なの羨ましいな〜って思った。

林 小学生は高学年になると毎年、地域学習で絞り染めをやりますからね。

浅井 うらやましい！私も初めて絞り染めを体験した時に、くくられた生地を広げた時にどんな柄が出てくるんだろうってワクワクした。有松・鳴海絞会館で作品やぐり職人さんの実演を見るだけでなく、ぜひ体験もしてほしいよね。

林 本当ですね。うちのギャラリーは、絞り作家の作品展示も行なったこともありますし、有松近辺でライフワークとして創作活動をしている方の作品を展示することもあります。絞りに触発された創作が生活の身近にあるんだろうなって思いますね。

浅井 たしかにそうかもね。絞り屋さんで扱う商品もいろんなものがあるから、時間が許す限り1軒ずつ見て回ると楽しいよね。有松は季節ごとにイベントもあるので、「また次も来ます」ってお客様に言っていたいただけると嬉しいです。

林 近くにお住まいの方にとっても、定期的にいろんな作品などが見られる楽しさもありますね。表現の場として使ってもらい、展示をやった方同士がつながれる場作りも頑張っていきたい。

浅井 私もお店のオープン前から地域の方に有松のことを教えてもらったな〜。菜々子ちゃんにも親切にしてもらって、オープン直前までい

ARIMATSU cafe | space 六弦とコットン

住所：愛知県名古屋市長区有松 3003 番地 1
営業時間：11:00〜17:00
定休日：水曜日（臨時休業あり）

有松東海道に面したカフェスペースで、コーヒー、紅茶、フードメニューを提供。併設のギャラリースペースでは、イベント展示や作家さんの商品を置くレンタルボックスでアートに触れられます。

MARUKI

住所：愛知県名古屋市長区有松 3001 番地 2
営業時間：9:30〜18:00
定休日：水曜日、第2・4火曜日

2022年秋にオープンした日本茶のお店。心と体も喜んでもらえるようにと日本茶と自然派おやつを店内やテイクアウトで楽しめます。有松絞りを使った商品の販売もしています。

いろいろ相談していたもんですね。おかげで今も楽しくできてます。

林 私もお店を始めた時に、みなさんがすごく気さくに話しかけてくれて。迷うこともありましたが、人と人のつながりで有松という町が続いてきたんだなと感じて、私もできることは助けたいなって思います。

浅井 本当にすてきな町ですね。自分が幸せにのお店をやらせていただいているから、同じ思いを持った人に何か力になれることがあって、広がっていったら楽しいのかな。

（2023年8月22日、六弦とコットンにて。文＝榊原あかね）

Seasonal Menu 季節のメニュー



抹茶ラテ /
ほうじ茶ラテ
550円(税込)

好評の抹茶ラテに加え、秋にはお客様から要望のあったほうじ茶ラテが登場。



自家製
あんこの
ぜんざい
550円(税込)

夏はあんみつ、冬は温かいぜんざいなど、自家製のあんこを使ったスイーツがおすすめ。



六弦とコットン
林菜々子

MARUKI
浅井万貴



1 記念御朱印
中町年行司

2023年は西町神功皇后車の建造150周年となる記念の年です。神功皇后（じんぐうこうごう）は龍王の娘とも言われ、勇ましい武の側面にあやかって龍の柄が彫刻として施されています。ぜひ手にとってご覧ください。
各1,500円

2 おみくじ付き 鴛鴦
中町年行司

菅原道真公の愛鳥として知られる鴛鴦は「災いや悪事をウソにする」縁起物として配り伝わっています。おみくじを取り出すと木鴛鴦は笛になります。大きなホーと小さなヒーの音色を聞き比べてみてください。
大1,200円 / 小1,000円

3 サンドル&ソックス
cucuri

トゲトゲの形状記憶がついたサンダルは、いつものコーディネートにプラスするだけでアクセントになるアイテムです。伝統的な有松絞りの技法である「蜘蛛絞り」を身近に感じられます。
サンダル 5,280円 / ソックス 3,300円

4 ノットバッグ
tetof 1608

有松・鳴海絞の糸で縫う染色技法「唐松絞り（からまつしぼり）」は、同心円状に固く縫い締めることで放射状に広がる絞り柄が植物の唐松に見えることに由来します。使うほどに柔らかな伊勢木綿を染め、現代的なカラーバリエーションのノットバッグを作りました。
4,180円

5 アームカバー
彩 Aya Irodori

手筋絞りで形状記憶を施したアームカバーは、腕を覆う長さがあります。全体にストレッチが効いていて締めつけ感が少なく長時間利用しても痛くならないのが特徴です。
2,200円

6 手ぬぐい各種
有松・鳴海絞会館

有松・鳴海絞のお土産といった江戸時代からのベストセラーの手ぬぐいは欠かせません。スクーフみたいに首に巻いたり、ハンカチにしたり、あずま袋に仕立てる使い方もできます。
各1,430円〜

7 ミニ巾着
有松・鳴海絞会館

かさばりにくくバッグに入れても使いやすい小さなサイズの巾着袋は、リップやアクセサリーなどの散らかりやすいアイテムをまとめるのに便利です。さり気ない場面で活躍する一品です。
1,650円

8 ベーグル
ダーシェンカ 蔵 名古屋有松店

添加物を一切使用せず、天然酵母でつくるベーグルは種類も豊富で多くの方に愛されています。町歩きの後の中庭や2階のカフェスペースで一休みしてはいかがでしょう。
各180円〜

川勝尚子
[有松天満社文庫]

今井歩
[cucuriディレクター]

神尾友恵
[tetof 1608 スタッフ]

大須賀彩
[彩 Aya Irodori 代表]

加藤明美
[有松あないびとの会]

六鹿晴美
[有松あないびとの会]

武馬淑恵
[ありまつ中心家守会]